

# 卒業論文作成の手引き

教育心理学研究室

## A. 領域・テーマの選択

### A.1. 問題を設定する

指導教員やティーチング・アシスタントあるいは他の教員や大学院生などに積極的に相談し、自分の関心を煮詰めて問題を具体化する。ただし、他コース・他大学の教員等に相談する場合は、指導教員に確認の上、必ず事前にアポイントメントを取り、失礼のないように配慮すること。

### A.2. 関連研究にあたる

最新の論文や専門書にあたり、そこに引用されている文献をたどっていく。

#### A.2.1 日本の文献：

「教育心理学研究」，「心理学研究」，「発達心理学研究」，「心理臨床学研究」，「カウンセリング研究」，「質的心理学研究」，「心理学評論」，「教育心理学年報」，「児童心理学の進歩」，各種紀要，などから関連研究を探す（日本における研究動向の概観には，「教育心理学年報」と「児童心理学の進歩」が比較的便利）。

#### A.2.2 外国の文献：

“Psychological Abstract”，“Psychological Bulletin”，“Psychological Review”，“Annual Review of Psychology”，“Child Development: Abstract & Bibliography”などが概観のために便利。東京大学教育学部図書室の Web Page (<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/lib/index.html>) には，各種の文献データベースや電子ジャーナルがリンクされていて利用できる。

#### A.2.3 研究法：

「心理学研究法入門－調査・実験から実践まで」（南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編，東京大学出版会），「教育心理学研究の技法」（大村彰道編，福村出版），「臨床心理学研究の技法」（下山晴彦編，福村出版），「心理学の実践的研究法を学ぶ」（下山晴彦・能智正博編，新曜社），「心理学研究法－心を見つめる科学のまなざし」（高野陽太郎・岡隆編，有斐閣アルマ），「はじめての質的研究法－臨床・社会編／教育・学習編／生涯発達編」（秋田喜代美・能智正博監修，東京図書），「社会心理学研究法」（村田光二・山田一成・佐久間勲編，福村出版），「新版社会心理学研究法入門」（安藤清志・村田光二・沼崎誠編，東京大学出版会）など。

#### A.2.4 テスト・心理尺度：

「心理検査法入門－正確な診断と評価のために」，渡部洋編著，(福村出版)，  
「心理測定尺度集 I～IV」，堀洋道監修，(サイエンス社)など。

※教育心理学研究室が所有するテストの一覧は，教育心理学コース事務室(201)にある。

#### B. 研究のタイプ

(1)主として質問紙などの調査にもとづく研究，(2)主として観察にもとづく研究，(3)統制された実験にもとづく研究，(4)心理学の方法・方法論に関する研究，(5)事例研究・フィールドワーク，など。

※原則として実証的研究に限る(文献研究のみ，理論的考察のみは不可)。

#### C. 計画のたて方・進め方

- (1)まず予備実験・調査等を行い，本実験・調査等に伴う諸問題について見通しを持つ。
- (2)実験・調査等の計画をたてる際に分析方法等についてもあらかじめ考慮すること。

##### C.1. 卒論執筆のスケジュール(例)：

- 4・5月：テーマの確定・文献研究
- 6月：基本的な研究計画
- 7月：予備実験・調査等
- 8月：予備実験・調査等の結果の分析
- 9月：本実験・調査等
- 10月・11月：本実験・調査等の結果の分析・考察
- 12月・1月：卒論原稿の作成及び印刷・校正

※題目届・論文・論文要旨の提出締切を学部便覧及び学生支援チームの掲示で必ず確認すること。卒論ゼミが4年次に3回程度あり，進行状況について報告しなければならない。

## C.2. スケジュール設定の注意点

- (1) 学校の休みの前後は調査等の依頼が困難な場合がある。
- (2) 9月、10月は学校行事が多いので、あらかじめ注意しておくこと。
- (3) データが集まってから泥縄で分析の仕方を考えるのではなく、分析プログラムの作成およびチェック等は夏休みなど時間の余裕のあるときに済ませておくこと。
- (4) 研究の進行に合わせて随時、必要な事項を確実に記録・文章化しておくこと。  
(参考にした文献、実験・調査の日時や被験者、方法や内容、気づいた点など)

## D. 研究協力者

- (1) 研究協力者の調達は原則として本人の責任において行う。
- (2) 研究の実施にあたっては、研究協力者の人権や心身の安寧等に十分に配慮すること  
(インフォームド・コンセントやプライバシー保護の確約等)。  
※心理学における研究倫理の詳細については「心理学・倫理ガイドブック：リサーチと臨床」(日本発達心理学会監修、有斐閣、2000)などを参照されたい。
- (3) 紹介状が必要な場合は、調査等の内容を指導教員に相談し、承認を得た上で、指導教員から作成してもらうこと。
- (4) 調査等の依頼先に、研究の経過・結果等を報告するのを忘れないこと。

## E. 論文の書き方

- (1) 学術論文にふさわしく書くこと(「論文の体裁と執筆の要項」参照)。
- (2) 当然のことながら、他者の論文やデータの剽窃、および架空のデータや結果の捏造等は断じてあってはならない。また、他者の論文を参考に考察等を行う場合は、必ずその論文の引用を行うこと。
- (3) 冗長にわたらないこと。量よりも質で勝負することを念頭におく。
- (4) 清書やプリントアウトおよび推敲・校正のための時間を十分にとること。  
※論文提出後の修正や差し替えはいっさい認められない。  
提出締切日の大学のPC・プリンタは非常に混み合うので、なるべく使用を避ける。
- (5) 論文の電子ファイルについてはこまめに複数のバックアップを取ること。
- (6) 提出した論文・要旨のコピーを、必ず手元に一部残すこと。